



2011年11月 8日

リブテック創製のがん治療用抗体プログラム 「LIV-2008」に関するオプション契約を締結

株式会社リブテック（社長：中村 康司）と株式会社ヤクルト本社（社長：根岸 孝成）は、このたび、リブテックが自社創製したヒト化モノクローナル抗体のプログラムである「LIV-2008」について、独占的なオプション契約を締結いたしましたので、お知らせいたします。

リブテックとヤクルト本社は、本契約の締結により、現在、前臨床段階にある「LIV-2008」について、共同で開発候補抗体の製造および一部の前臨床試験を実施します。また、その期間中、リブテックは、「LIV-2008」について、ヤクルト本社にオプション権を供与します。

ヤクルト本社がオプション権を行使する場合は、別途両社でライセンス契約を締結します。ヤクルト本社は、ライセンス契約の下、リブテックから「LIV-2008」の全世界における独占的な開発・製造・販売権を取得します。

このたびのオプション契約の締結に伴い、ヤクルト本社は、リブテックに対し、契約一時金およびオプション期間中の研究の進捗に応じたマイルストーンを支払います。また、オプション期間中にリブテックが実施する各種試験・検討の費用を負担します。

その後、ヤクルト本社がオプション権を行使してライセンス契約を締結した場合は、リブテックに対し、ライセンス契約締結時の一時金、開発の進捗に応じたマイルストーン、および製品の販売額に応じたロイヤリティを支払います。

〔「LIV-2008」について〕

「LIV-2008」は、膵臓がん、大腸がんを中心とする固形がんの細胞表面に発現している特定の抗原（標的分子）に結合しがん細胞の増殖を阻害するヒト化モノクローナル抗体の研究開発プログラムであり、リブテックのがん幹細胞研究の成果として見出された、複数の新しいがん治療抗体を開発候補として含むものです。「LIV-2008」に含まれる抗体は膵臓がん、大腸がん等の複数のモデル動物で顕著な抗腫瘍活性を示すことが確認されており、これらのがん腫において優れた臨床効果を示すことが期待されます。

〔株式会社リブテックについて〕

㈱リブテックは（財）神奈川科学技術アカデミーの幹細胞制御プロジェクトの研究成果に基づいて2004年に設立されたバイオベンチャーです。神奈川県川崎市に本社および研究所を有し、幹細胞とがん発生に着目し、固形がんを対象とした治療用抗体の研究開発を行っています。㈱リブテックに関する更なる情報は、ウェブサイト

(<http://www.livtech.co.jp>) をご覧下さい。なお、「LIV-2008」は、（独）新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）の平成21年度イノベーション実用化開発費助成事業の研究成果の一部です。

〔株式会社ヤクルト本社について〕

㈱ヤクルト本社は、医薬品、飲料・食品、化粧品の開発・販売を行う日本企業です。医薬品事業においては、がん領域での強固な地位を確立しています。㈱ヤクルト本社に関する更なる情報は、ウェブサイト(<http://www.yakult.co.jp>)または会社概要をご覧下さい。

〔免責事項〕

本プレスリリースには、我々の将来の事業、製品またはサービス、将来の決算報告、あるいはその種の報告に内在または関連した前提に関する計画および目標についての予想あるいは見通しが含まれており、それぞれが、多くの場合制御困難であるリスクおよび不確定要素を伴う将来の見通しに関する記述の一部に相当します。実際に生じる結果は、多くの要因によって、大きく異なる可能性が有ります。

以 上